

< 消化器内科からのお知らせ >

甲南病院と六甲アイランド甲南病院では、夜間休日のオンコール体制で緊急内視鏡が必要な消化管出血にも積極的に取り組んでいます。

お問い合わせ先 偶数日▶甲南病院/TEL:078-851-2161(代)
奇数日▶六甲アイランド甲南病院/TEL:078-858-1111(代)

※二次救急当番日や年末年始などは、担当病院が変更となっていることがあります。必ずどちらかの病院が担当しております。

< 中央放射線部からのお知らせ >

甲南病院、六甲アイランド甲南病院の各放射線部では、画像診断にも迅速に対応しております。CT・MRI・DEXA検査等の必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

お問い合わせ先 甲南病院患者サポートセンター/TEL:078-851-0122 FAX:078-854-4158
六甲アイランド甲南病院患者サポートセンター/TEL:078-858-2322 FAX:078-858-2318

少しずつ、新病院が形づいてきました!

今は
大事な基礎工事
などを行っています



①本館基礎工事



②南館1階躯体工事



③南館B2F型枠解体



新甲南病院 2022年竣工

『新甲南病院建設事業』への 募金をお願いいたします

昭和9年開院より80有余年が経過し、甲南病院は今新しく生まれ変わろうとしております。高度な医療を皆様に提供するという使命感のもと、機能的で安全かつ快適性を重視する病院を目指してまいります。つきましては病院建設事業募金へのご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

《お問い合わせ先》事務局総務部 078-854-4072



甲南病院

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
TEL:078-851-2161(病院代表)
TEL:078-854-4370(地域医療連携室/患者サポートセンター)



六甲アイランド甲南病院

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-858-1111(病院代表)
TEL:078-858-2322(地域医療連携室/患者サポートセンター)



『地域の皆様と心を通わす』

甲南通信



2018
March
No. 06

[特集]

東神戸に新たに強力な緩和医療 チーム(医師4名)がスタートします!



緊急告知!!



平成30年
5月19日(土)開催!!

第59回日本消化器病学会 近畿支部

【市民公開講座】

「メタボとおなかの病気」
—意外と怖いメタボの
行く末—

[NEW]

血液がんに対する 大量化学療法を開始予定!!

[診療科ニュース]

心臓リハビリで身体的な機能回復 を行います。

[Information]

◎駐車場が4ヶ所になり、約80台に増えました。



4月から緩和ケア診療が 拡充されます

心のこもった
全人的ケア

苦痛緩和の
サイエンス

緩和医療



甲南病院
緩和ケア内科 部長

久保田 眞毅



緩和医療に重要な点とは？

日本のホスピスの草分け的存在である 柏木哲夫先生は第1回日本緩和医療学会(平成8)の会長基調講演で緩和医療は2つの中心(焦点)を持つ楕円として発展していくことの重要性を強調されました。すなわちその2つの中心とは1つは苦痛緩和のためのサイエンスであり、もう1つは心のこもった全人的ケアです。ホスピスは100あれば100違ったやり方を行っているといわれています。それはこの2つの中心のバランスや、緩和医療にはレベルの高いエビデンスがないことに起因していると考えられます。死を直前にした、病態の異なった患者さんについてのレベルの高いエビデンスは、残念ながら存在していないのが現状です。正解があると思えば、患者さんの個別性を尊重し、患者さん・ご家族と理解を深め合い、困難な過程を分かち合う医療ということになるのでしょうか。

▶ホスピス開設3年を迎えて

平成27年4月に甲南病院 緩和ケア病棟が開設され、3年が経とうとしています。患者さん・ご家族が納得され、大切にしてもらえたと感じていただける医療を目指してまいりました。これまで亡くなられた患者さんやご家族から学ばせていただいた経験を積み重ね、デスカンファレンスなどを通して、一般病棟では経験できない、患者さん・ご家族に対する医療についての気づきを口にするスタッフが増え、緩和ケア病棟全体の成長を感じていますが、ここまでやってこられたのも退職された方も含めたスタッフのおかげだと感謝しています。

▶今後の甲南病院 緩和ケア病棟は

さて本年4月から神戸大学医学部 緩和支援治療科から若い精鋭の3名の医師に、最新のサイエンスを携えて来ていただくことになりました。とりわけ 山口 崇医師とは昨年来、今後の緩和ケア病棟のあり方について話し合ってきましたが、ゆっくりと着実に、しかし早急にそれぞれのいいところを融合させて、甲南病院ホスピスの発展につなげてまいりたいと考えています。国は在宅へ患者の誘導を図る施策を次々と打ち出しており、ホスピスも入院期間の短縮や在宅とのシームレスな連携が急務となると考えられます。また癌やエイズに限られていた対象疾患も心不全・呼吸不全などの終末期にも拡大されることが予想されています。将来的には独自の在宅部門の創設も必要となると考えます。

今後も、緩和ケア病棟にご理解・ご協力を賜りますようによりしくお願いいたします。

緩和医療に新しい息吹を！

平成30年4月より甲南病院でお世話になる山口 崇です。甲南病院 緩和ケア内科・緩和ケア病棟は平成27年に開設された新しい部門です。開設時は0からの発進でしたが、スタッフ一丸となって東灘区周辺にお住まいの進行がん患者さんの療養サポートを行い、着実に実績を積み重ねてきております。これまで患者さん・ご家族のケアに尽力していたスタッフに加え、この度、私をはじめとして3人の医師が緩和ケア内科の一員として加わり、全国でも有数の体制を敷いて、患者さんのケアに当たる予定です。

これからの甲南病院の緩和ケア

今後予想される高齢化の進行に伴い、がんを抱えながら過ごす地域住民の増加が見込まれます。東灘区を中心とした近隣の患者さんが、その時になるべく“過ごしたい場所”で安心して過ごし、より良い暮らしができるためのお手伝いをするのが我々の役割だと考えています。その中で、甲南病院 緩和ケア内科・緩和ケア病棟は、主として入院機能を担う部門としての運用を考えております。緩和ケア病棟の運用に関しては、従来の“最期を迎える場所”という面だけではなく、病状評価・苦痛症状のコントロール・在宅療養体制の調整・(介護者の疲労緩和のための)レスパイト入院のための短期入院への対応も行い、よりアクティブに患者様さん(とご家族)の療養生活をサポートしていきます。

▶地域の医療機関との共同の重要性

我々の病棟運用は、通院・訪問診療を含めた外来機能を地域の先生方に担っていただいている上に成り立つ運用方法となります。そのため、地域の先生方・医療機関と二人三脚の密な連携関係を築いていき、入院要請があった際には迅速に対応させていただきます。また、緩和ケア病棟入棟面談(外来)では、その後の療養や治療に関する相談を(1時間程度と短い時間ではありますが)行っております。このプロセスは患者さんのその後の生活の仕方や人生の最終段階の過ごし方を一緒に考える機会として大切なものと考えております。ですので、ぜひとも少し早い段階(ゆっくり話し合いができる程度の体調が保っている全身状態)で、患者さんをご紹介いただければと思います。

▶甲南病院 緩和ケアのミッション!!

甲南病院の緩和ケア部門は、東灘区周辺の地域で暮らす患者さんやご家族がご病気を抱えながら日々を過ごしていく中で、少しでも“Life(暮らし・生活・人生)”を感じられるようなサポートを行っていくことを心掛けていきます。



● 甲南病院 緩和ケア内科 部長 山口 崇

【経歴】

- 2004年 岡山大学 医学部医学科 卒業
- 2004年 手稲溪仁会病院(札幌) 研修医
- 2006年 手稲溪仁会病院(札幌) 総合内科 後期研修医
- 2008年 筑波メディカルセンター病院(つくば) 緩和医療科 (緩和ケア病棟の研修、大和クリニックでの診療所研修)
- 2010年 聖隷三方原病院(浜松) ホスピス科(臨床研究の研修)
- 2011年 手稲溪仁会病院 総合内科・感染症科/緩和ケアチーム 医長
- 2013年 神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科 特定助教
- 2017年 県立加古川医療センター 緩和ケア内科 主任医長
- 2018年 甲南病院 緩和ケア内科 部長

【資格】

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本緩和医療学会 緩和医療専門医

4月から
よろしくお願
い
しま〜す!





▲甲南病院 緩和ケア病棟スタッフ

「生きること」をサポートした看護を



甲南病院 緩和ケア病棟 師長 大窪 ゆかり

甲南病院の緩和ケア病棟は、開設してから3年が経過しました。開設当初は、東灘周辺の患者様を中心に入院して頂いておりましたが、少しずつ他府県からの紹介の方も増えて来ました。

入院された患者様ご家族の生きることを支え、「甲南病院の緩和ケア病棟で過ごせてよかった。」と感じて頂けるよう1日を大切に看護を行っています。日々の看護だけでなく、ボランティアの方々とも協力して、週に1回の「歌の会」やティーサービス、夏祭り、クリスマス会などの季節行事や遺族会も開催しています。遺族会は「あなたの悲しみに寄り添う」という花言葉から「りんどうの会」と名付けました。昨年の「りんどうの会」では、20家族29名のご遺族の方に来院して頂き、茶話会を行いながら、思い出を語り合いました。参加されたご遺族からは、「同じ場所、同じ空間を過ごした方と思いを共有できてよかった。」「医師、看護師と久しぶりに会え、心が癒されました。」などのご意見を頂く事ができました。このように患者様への看護だけでなく、ご家族への支援も行いながら患者様とご家族が少しでも安心して穏やかな時間が過ごすことができるようにサポートしています。

▶甲南病院 緩和ケア看護の未来

今後、緩和ケア医療にはさらに多くのことが求められます。癌だけではなく対象疾患の拡大や在宅療養支援など、緩和ケア病棟で働く看護師にも求められるが多くなる事が予測されます。それに向けて、認定看護師を中心とした教育の中で知識・技術の向上を図り、医師・看護師、臨床心理士などの多職種で行うカンファレンスやナラティブ、事例検討などを更に充実させ、病棟全体で成長していきたいと考えています。地域の人々が住みなれた場所で最後までその人らしく生活ができるように支え、最後の時間を過ごす場所として甲南病院の緩和ケア病棟を選んで良かったと思っただけのよう、先生方と一緒に頑張っていきたいと思えます。



診療科ニュース NEW

血液がんに対する 大量化学療法を 開始予定!!



甲南病院
血液内科 診療部長
下山 学
日本血液学会血液専門医
日本内科学会認定内科医、認定内科指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本がん治療認定医
機構新認定教育医

血液内科が新設されます

2018年4月より着任する下山 学です。神戸大学に勤務後、淀川キリスト教病院で8年間診療をしてきましたが甲南病院での血液内科立ち上げに伴い血液専門医として勤務することとなりました。

血液内科とは？

血液内科は皆さまにあまり馴染みのない診療科かと思いますが少し紹介をさせていただきます。血液の細胞成分である白血球、赤血球、血小板の数、機能の異常を主に扱う科です。白血病、骨髄異型性症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍(血液のがん)、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病といった良性疾患が診療の対象疾患に挙げられます。他にも様々な疾患がありますが悪性リンパ腫によるリンパ節腫大、貧血による倦怠感、動悸、息切れ、血小板減少や機能異常による紫斑、出血などが起こり得る臨床症状となります。発熱や倦怠感、体重減少などの原因精査中に血液検査で血液細胞の異常や画像検査でリンパ節腫大を認め、血液疾患の診断に至ることもあります。

▶血液疾患の現状

他のがんと同様に血液のがんも人口の高齢化に伴い増加傾向にあります。しかし、分子標的薬などの新規薬剤の登場により悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の治療成績は向上しつつあります。たとえ治癒に至らなくても薬物療法によって年単位で生活の質を保ったまま自分らしく過ごすことができる場合も多数あります。高齢者でも状態や合併症に応じて無理ない範囲での薬物療法で生活の質の改善を期待できる例もあります。造血器悪性腫瘍は若年者にも発生しますがその場合は大量化学療法の適応となります。より安全に大量化学療法が行えるようにクリーンルーム(無菌治療室)を備えた病棟が完成予定です。外来化学療法室も完備し入院でも外来でも安心して抗がん剤治療を受けていただける体制を整えていきます。

▶甲南病院における今後の展望

クリーンルームなどの設備が整えば悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の適応症例に対し自家末梢造血細胞移植併用大量化学療法を開始していく予定です。予め自分の造血幹細胞(白血球、赤血球、血小板のどの血球細胞にも分化可能な細胞)を採取凍結しておいて大量化学療法後に体に戻すことによって通常よりもより大量の抗がん剤投与を可能とした治療法です。この治療法により再発、難治症例に対しより良い治療成績を期待することができます。また白血病に対する初期治療も体制が整えば施行可能となります。同種移植(他人の造血幹細胞を使った移植)が必要となった場合は神戸大学など近隣の移植施設と密な連絡を取りながら紹介させていただくこととなります。多職種と連携して成人すべての世代の治療成績の向上、生活の質の向上を目指し、同種移植



移植以外のすべての標準化学療法施行可能な施設として稼働する予定です。血液疾患の症状は多岐にわたりほとんどすべての器官・臓器に出現し得るため臓器横断的な対応が必要となります。血液疾患以外の疾患加療中の方も多くかかりつけである近隣の先生方や他科の先生方と連携しながら個々の患者さんに応じた最適な治療を提供していきたいと思えます。血液内科のある病院は少なく地域の基幹病院としての役割を果たしていく所存ですのでよろしくお願いいたします。

心臓リハビリテーション ご存じですか？



心臓リハビリテーションとは？

心臓リハビリテーションという言葉やその内容をご存知ですか。リハビリという言葉からは、運動療法による身体的な機能回復のための訓練がイメージされます。脳卒中や骨折手術後のリハビリはよく知られていますが、心臓リハビリをご存知のかたは、まだまだ少ないようです。心臓が弱っている人に運動なんてと思われるかもしれませんが、個々の状況に応じた、適切な強度の運動負荷をかけることは、体力の回復、そして精神的にも不安や抑うつ軽減などよい効果があります。そして運動療法だけでなく患者さんおよびご家族の方にも教育、生活指導、カウンセリングを行うことも心臓リハビリの重要な内容です。



心臓リハビリとは心筋梗塞、狭心症、心不全などで急性期治療を受けた患者さんが社会復帰し、再発を予防して、最終的に快適で良質な生活を目指すために、運動療法だけでなく食事療法・生活指導・カウンセリングなどを包括的に行うプログラムなのです。

▶心臓リハビリの具体的な効果

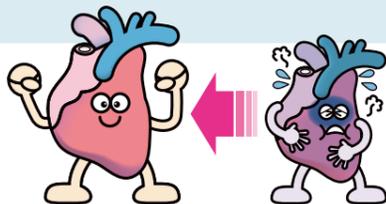
①運動能力を増加させる②狭心症や心不全の症状が軽減する③冠動脈内皮機能を改善、酸化ストレスを抑制、冠動脈病変の進行を抑制する④不安や抑うつ状態を改善する⑤ステント治療後の死亡率、心不全患者の死亡・再入院を減少させる⑥全身・心臓に関連する遺伝子発現が活性化され、冠危険因子が改善する—などの効果が報告されています。つまり心臓リハビリは治療と予防を兼ね備えた心疾患の先進的医療なのです。

まだまだ認知度の低い心臓リハビリですが、当院では2015年9月より心臓リハビリを開始しました。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、ソーシャルワーカーでの多職種チームを組んで個々の患者さんに対応しています。最初は専用スペースもなく、機材も乏しい状態から開始しましたが、現在は循環器病棟に専用スペースも確保でき、患者さんの運動療法、指導、チームでのカンファレンスを活発に行っています。

▶六甲アイランド甲南病院での治療

当院の心臓リハビリは心筋梗塞や心不全を発症して入院された急性期の患者さんや他院で心臓手術や大血管手術を受けた亜急性期の患者さんを受け入れています。

6分間歩行、心肺運動負荷検査(CPX)などの運動負荷検査結果を参考に各個人に適した運動負荷量を決定し、エルゴメーターを使用した有酸素持久運動と筋力トレーニングを医師、看護師、理学療法士と共にモニター観察下で安全に配慮した状態で行っています。



当院では高齢の患者さんも多く、集団のメニューをこなせない方は個別での理学療法士とのマンツーマンでの運動療法、生活の質が向上できるよう作業療法士との作業療法など行います。



さらに月曜は栄養士からの栄養指導、火曜は医師からの心不全指導、水曜は薬剤師からの服薬指導、木曜は理学療法士からの運動指導、金曜は看護師からの生活指導と毎日の集団指導および個別での指導も行い病気を再発させない、生活の質を向上させるためのお手伝いをさせていただきます。

退院して社会復帰できれば心臓リハビリは終了したわけではなく、その後の生涯にわたる快適な生活を維持するための維持期リハビリが必要です。現在は当院ではまだ入院での心臓リハビリしか行っておりませんが、外来通院リハビリ、さらに在宅あるいは地域の運動施設と連携したリハビリまで行うことができるのが今後の目標です。



運動療法のおすすめ

■1日30分の歩行を週5回程度の運動をすることで、12人に1人の死亡が予防できるそうです。健康や長寿のために良く歩きましょう。歩行はシンプルで、無料でなんの訓練も設備も必要としない理想的な運動です。ちなみに厚生労働省の国民栄養調査によると現在の日本人の歩数は1日平均で男性8208歩、女性7282歩だそうです。70歳以上の高齢者では男性5436歩、女性4604歩となっており、身体活動目標として男性9200歩、女性8300歩が目標とされています。70歳以上の高齢者では男性6700歩、女性5900歩が目標です。

■心臓病の患者さんが運動療法をする際の適度な運動の強さとはどの程度なのでしょう。運動の効果は運動の強さが強いほど大きくなります。例えばアスリートは、記録を伸ばすために自分の最大能力のところでトレーニングをします。ところが、強い運動をすると、骨折や腰痛などの傷害の発生率が高くなり、心臓への負担も増えます。強い運動をすればするほど健康になるわけではないのです。心臓病の患者さんの運動療法の目的は、記録を伸ばすことではなく、健康を維持することですから、最大能力の40~60%の強さの運動が適切とされています。

■運動療法を安全に、しかも効果的に行うために、その患者さんに最も適した運動のやり方を決めることを「運動処方」と呼びます。運動処方の内容として、運動の種類、強さ、時間、頻度が指示されます。まず運動の種類は、心臓病の場合、早足歩き、自転車こぎ、体操などが勧められます。運動の強さは最大能力の40~60%が目標ですが、その目安として運動中の心拍数、トレーニング心拍数を用います。トレーニング心拍数は個人差がありますので病院では運動負荷検査を行ったうえで適切な心拍数を決定しています。適切な運動の強さのもう一つの目安は、自覚症状です。自分で「ややきつい」と感じる強さ、「軽く息がはずむ」、「軽く汗ばむ」とか「息が上がらず、会話をしながらできる程度」といった程度の強さが適切とされています。運動の時間は、30分から60分が適切です。これは15分を2回とか、30分を2回というように分割してもかまいません。また運動の頻度は、1週間に3回から7回が適切とされていますが、心臓病と糖尿病を併せ持っている患者さんは運動の回数を多め(週5~7回)にし、心不全の場合は少なめ(週3~5回)にするのがよいでしょう。

運動療法を行う上で守っていただきたい大事なこと

- 1)運動療法を安全に行うこと：
運動をするときは無理をせず、疲れや異常を感じたら休んでください。
- 2)運動療法を確実に正しい方法で行うこと：適切な運動の強さや時間を守りましょう。
- 3)運動だけでなく、食事療法や禁煙も合わせて実行しましょう
- 4)長く継続しましょう：「継続は力なり」です。無理をせず長く続けましょう。



駐車場のご案内



駐車場が近隣に新しく増えました!

甲南病院では、新甲南病院建設工事に伴い駐車場が減少しておりましたが平成30年2月より、北西へ約100mの場所に新しく32台分の第5駐車場ができました。これにより、正面玄関前に24台、第2駐車場に14台、第3駐車場に8台、第5駐車場に32台、計78台分の駐車場を確保することができました。これまでみなさまには、駐車場利用においてご不便をおかけしましたこと、大変申し訳ありませんでした。今後は、診察・お見舞いの際にどうぞご利用ください。



第5駐車場(北側)



第5駐車場(全景)



甲南病院が運営事務局として協力

今年も春に全国レベルの市民公開講座を開催します!

参加費
無料

定員
400名

※当日
受付も
できます。

第59回日本消化器病学会 近畿支部 市民公開講座

「メタボとおなかの病気」

— 意外と怖いメタボの行く末 —



場所 御影公会堂

日時 平成30年5月19日(土) 14:00~17:00

●第1部 メタボと消化器のがん ●第2部 環境変化と胃腸のやまい

お申込み方法 甲南病院運営事務局 / E-mail: jsge-shimin@kohnan.or.jp

TEL:078-854-4075 FAX:078-854-4142



URL: <http://www.kohnan.or.jp/kohnan/shimin/>

締切 平成30年4月27日(金) ※詳細は、ポスター、チラシをご覧ください。

▶▶▶ メタボでない人にも大切な家庭の医学 ▶▶▶

JR住吉駅・
六甲道駅から
臨時送迎バス運行



※便数に限りがございますので
予めご了承ください。

長坂医院

院長 長坂 肇

住所: 神戸市東灘区岡本2丁目4-11

TEL:078-451-3611

FAX:078-451-3612



診療科目 内科

H P <http://ynagasaki.byoinnavi.jp/pc/>

アクセス 電車: JR摂津本山駅より、西へ徒歩3分
阪急岡本駅より、南西へ徒歩7分
バス: 神戸市バス「岡本2丁目」バス停前
お車: 山手幹線、岡本交差点より東へ80m浜側

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休み
午後 16:00~19:00	○	▲	○	休み	○	休み	休み

※木・土曜日は午前中のみ診療 ※▲火曜日午後は17:00~19:00 ※日曜・祝日休診

甲南病院グループと
クリニックの病診連携

登録医制度
のご案内



診療内容の特徴・今後の抱負

当院は父長坂正幸が昭和48年に岡本2丁目の現在地で内科医院を開業いたしました。以来、地域の町医者(家庭医)として診療させていただいております。わたしは3月末をもって6年間の東灘区医師会会長を退任します。今後の抱負としては、東灘区には在宅療養されている小児の難病患者さんに対して訪問する在宅医がいらないことから、これから研修を受けて少しでもお役にたてるようになりたいと考えています。

60歳から「研修医」しまーす。

貸切バスで 快適な旅

安全

快適

親切

グループでの
パーティーや旅行に

会社での
見学・研修に

クラブでの
合宿・試合に

豊富なバリエーションで、あらゆるシーンに対応いたします。



マイクロバス

乗務員 1名
座席数 27
(内補助席 6)
トランク なし

中型送迎バス

乗務員 1名
座席数 44
(内補助席 7)
トランク なし

大型観光バス

乗務員 1名
座席数 53 ~ 56
(内補助席 8 ~ 10)
トランク あり

その他、ワゴン車タイプや大型送迎バスなどもございます。(いずれも運転手付き)



〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1丁目4
TEL:078-845-3710 FAX:078-845-3713
<http://www.kobe-minato.co.jp>

ご相談・お問合せ・お見積り

お客様窓口 **078-845-3710**

国土交通省制定「新運賃料金制度」に基づいた適正料金にて運行いたしております。

神戸老舗《萩原ブランド》を使用した
美味しいコーヒーの店

Ric Cafe

六甲アイランドにお住まいの皆様、六甲アイランドに訪ねて来られた皆様が、ほっと一息つける、温かみのある落ち着いた空間と、美味しいコーヒーやバラエティに富んだフード、デザートをご用意して皆様のお越しをお待ちしています。

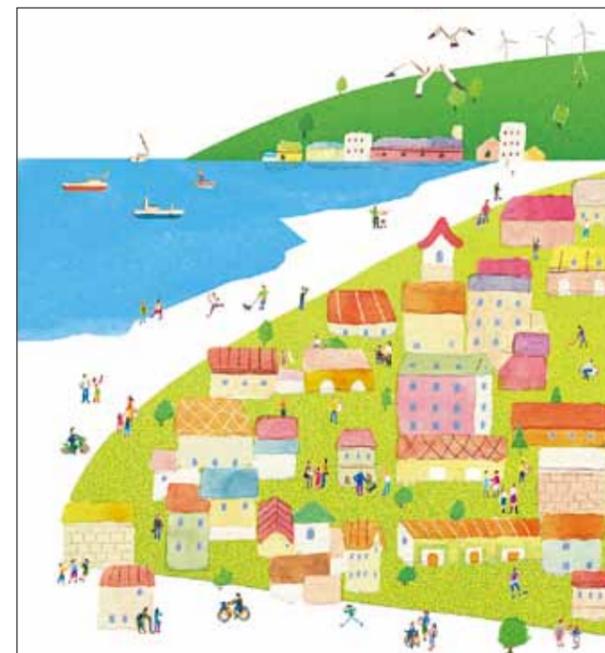
※六甲アイランド甲南病院を利用されている方には診察券のご提示でドリンク50円割引サービスを実施しています。



六甲アイランド シティモール (六甲アイランド甲南病院 2F出口から直ぐ)

Ric cafe リックカフェ AM7:30~PM7:00(年中無休)

〒658-0024 神戸市東灘区向洋町中2丁目11 TEL:078-811-7116



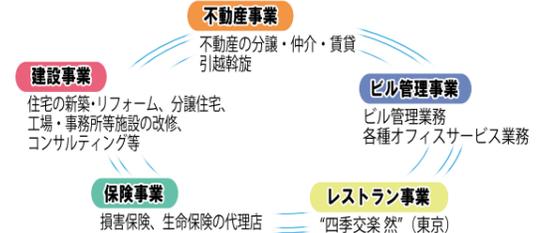
想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

竹中工務店

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 7-1-8
TEL : 078-265-3314

より良い明日へ
一歩先のサービスを

Kawasaki
Powering your potential



カワサキ ライフ コーポレーション
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 神戸クリスタルタワー
TEL: 078-360-5400 FAX: 078-360-5405 URL: <http://www.kawasaki-life.jp>
事業所: 神戸 / 東京 / 岐阜 / 明石 / 坂出



GS 銀泉株式会社
神戸支店

銀泉は保険・ビル・駐車場事業の
ベストパートナーです。

〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-5-1
銀泉三宮ビル4F
TEL:078-335-2591